

高

二画目の横画にしっかりと八分を入れて、下の縦画を短く書き、口の最終画少し左側から出るようにして、アクセントをつけま

祖

偏の横画は右上がりに書き、隣の最終画の横画はしっかりと八分を入れ、右側を重く見えるようにバランスをとりましょう。

初

衣への三画目を長くして突くようにして止める。最終を偏の下まで長く書きましょ

興

上部が広くなりますのであまり広がらないようにして、横画の頭に点をうち、しっかりと八分を入れましょう。

改

偏は五画、旁は三画目の点を入れ忘れないで入れて、最終画、誇張すぎに見えるほどしっかりと入れましょう。

秦

横画右側で上に上がって見えませんがほぼ水平に書き、右下への線は突き止め、右払いはしっかりと八分を入れましょう。



則

細めの画で、スッキリと仕上げてみましょう。隣の「リ」の最終画は石の破損があるが、少し右下方に書いてみよう。

弥

偏の下部は少し太く。旁は幅広く書いてみて下さい。

於

偏の第一画少し横長に書いて下さい。旁は空間を考え、自由な筆使いで、線の力強さを出して下さい。

宇

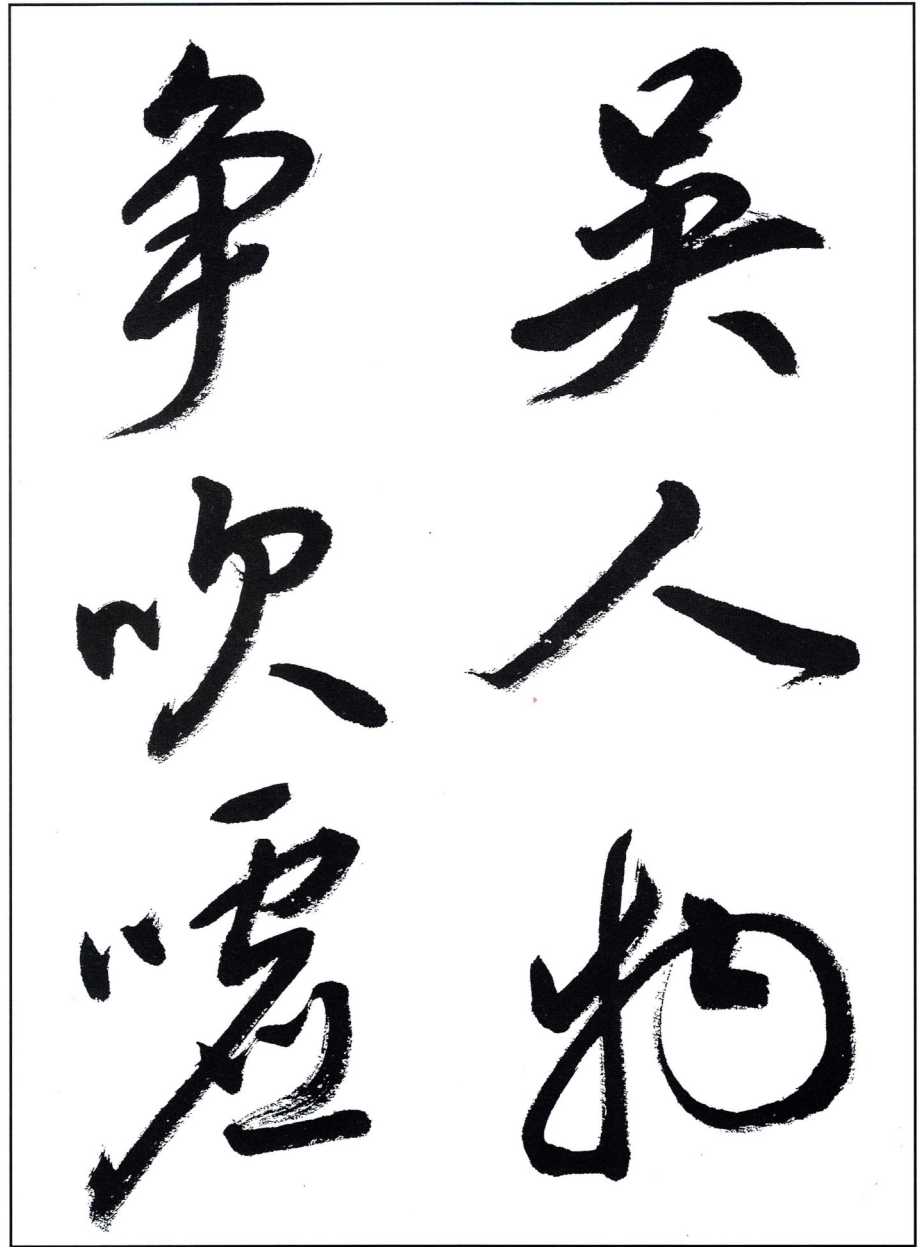
スケールの大きい字です。雄大に暢びやかに書いて下さい。

宙

すばらしい「ウ冠」。下部の「由」をやや下に、少し大きく書いてみよう。

細

隣の「田」を幅広く書き、少し大きく書いてみて下さい。偏は空間を広く。私のは少しつまりすぎた感があるので、皆様はもう少し空間を出して下さい。



吳

口は墨量多く。

人

一画目の最後 二画目への気持ちを含めて。

物

旁から 腕を大きく動かして 筆管を立てて運ぶ。

争

最後の線、心をこめてゆったりと。

吹

偏から続けて 旁の一画目に入る。

嘘

左への長い線、次の画を思い ゆったりと運ぶ。



井上峰雪書

彼の夢の世界の如く、心地良い流れとリズム感、バリエーション豊かな表現を、少しは感じ取ることが出来たでしょうか。原帖では、行を左右自在に揺らしながら、字形の崩れ（左を大きく飛ばす傾向有り）ギリギリの所で持ちこたえ、見る人を幻惑させるかの様な、変化の妙を尽くしていると評されています。
(紫陽*の真人、我を邀えて吹く)

之 原帖は極小字ですが、大事にしつかりと運筆。

真 下部の左右のハネ、読み取れるギリギリの間隔での運筆。

人 すっきりの左払いに対し、右払い多折法による。波のように筆のゆるぎを出す。

邀 読み（むかえる）。筆順を確認。この終筆のうねり一気。

我 一画目細い線、二画目太く、三画目長く。右方向のハネ部分の運筆、軽く柔らかに。

吹 字形の取りづらい書き方ですが、扁と傍の空間を呼び込む間合留意し、柔らかに余韻を残して。